主題：特別養護老人ホームにおいて多職種で連携して自己決定支援をおこなう際のソーシャルワーカーの役割について

○　横浜市神奈川福祉保健センター　　氏名　藤原　ヨシ子（８３０５）

キーワード３つ：多職種連携　自己決定支援　ソーシャルワーカー

１．研 究 目 的

本研究は,特別養護老人ホームにおいて多職種で連携して自己決定支援をおこなう際のソーシャルワーカー（厚生労働省令上は生活相談員,以下ソーシャルワーカーと称する）の役割について明らかにすることを目的とした.

そのため,社会福祉実践現場においておこなわれているソーシャルワーク実践で重要視されているサービス利用対象者の自己決定を尊重するということを１つの指標とし,特別養護老人ホームのソーシャルワーカーがおこなっている多職種で連携しておこなう自己決定支援に注目した.

特別養護老人ホームのソーシャルワーカーがおこなっている自己決定支援は，主に判断力の低下している要介護高齢者を対象としているため，真にサービス利用対象者の自己決定を進めていくことが難しい状況にある.

そのため，そのご家族や多機関にわたる専門職との連携は不可欠となっている.

判断力の低下している要介護高齢者の自己決定支援を，多職種と連携してどのようにおこなっているかについて,実際に支援をおこなっている生活相談員にインタビューをおこない,そのデータを質的に分析することによって,特別養護老人ホームにおいて多職種で連携して自己決定支援をおこなう際のソーシャルワーカーの役割について深く考察したいと考えた.

２．研究の視点および方法

特別養護老人ホームのソーシャルワーカー５人のインタビュー結果を文字データ化し,文字データ化したものを質的に分析した.

このことによって，ソーシャルワーカーが現におこなっている多職種連携した自己決定支援の内容について，その基本的枠組みを明らかにしようと試みた.

３．倫理的配慮

文書及び口頭にて、調査の目的、面接調査の期間・方法、記録（録音）、分析方法と手順、結果の使用方法と目的、論文について説明を行い、了承を得て、特に個人が特定されない

よう留意し、分析をより適切に行うため、分析協力者等（主に指導教官）に対してのデータの一部開示については個人が特定されないよう守秘義務について履行した。

４．研 究 結 果

インタビュー対象となった５人が語る多職種で連携して自己決定支援は，各々の特徴を有していた．

しかし，その一方で，共通する要素も含んでいた．

この共通する要素に注目しまとめたものとして,以下の内容を表すことができた．

特別養護老人ホームにおいてソーシャルワーカーは,多職種で連携して自己決定支援をおこなうために,全体を“みる（見る・観る・視る・看る)”ことで,利用者や家族,多職種と協働していく過程の全体像をとらえていたが,その際には,時間軸の流れの中で,利用者や家族,多職種と協働していく過程を“育む（時間を重ねる)”ことをおこない,そのことによって,それぞれの共通した目標に“向かう”ということを意識していた．

そのために,特に“きく（聴く・訊く・掬する)”ということと,“つなぐ”ということに心をくだいていた．

5. 考 察

本研究は，５人のソーシャルワーカーのインタビュー調査の逐語録に基づく質的研究である.このため,本研究の対象となったソーシャルワーカーが特別養護老人ホームでおこなっている多職種連携による自己決定支援については提示することができた．

しかしながら,普遍的なソーシャルワーカーの役割については提示することができていない.そのため,今後,他の施設種別のソーシャルワーカーの役割について考察することが必要だと思われた．

そのことにより,他分野のソーシャルワーカーが多職種で連携しておこなう自己決定支援での役割と今回の調査の結果を比較検討することができる．

これらのことを積み重ねていくことで，高齢者福祉施設におけるソーシャルワーカーが多職種で連携しておこなう自己決定支援の,普遍的な特徴を提示することができると思われる．